

令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 (運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

成果報告書



本報告書は、スポーツ庁の「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一環として、滑川市が実施した滑川市地域連携部活動推進事業の成果を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

1. 自治体の基本情報



基本情報 (R6年度)

面積	54.62 km ²
人口	32,654人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	806人
部活動数	29部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

市内中学校の生徒数は年々減少しており、令和6年度の児童生徒数や出生数から、令和6年度の806名から令和16年度には667名と、10年間で約140名減少する推移予測がされている。生徒数の減少により、単独校でのチーム編成ができずに大会に出場することができなくなったり、活動内容の充実が図れない状況になったりしている。また、生徒数の減少に伴う教員数の削減により、顧問の配置が難しい状況になるとともに、競技経験や指導経験のない教員が指導にあたることが多くなり、教員の負担感の増加につながっている。

そのような現状等から、学校だけでなく、地域全体で、子どもたちを支え、育てる滑川市型地域部活動として、運動・スポーツの実施機会の保障や環境整備に向けて、地域の協力を得ながら段階的に進めていくこととして協議・検討を進めてきたところである。しかし、地域においても、本業とクラブ活動の指導の時間等の確保ができる指導者が少ないと等、従前同様の活動機会等を保障しながら速やかな地域連携・地域移行を行うことが難しいのが現状である。

できる限り従前同様の活動機会を保障するための取組・支援を行うこととしつつも、学校・地域の現状により、従前通りの活動を維持・保障することが難しい現状を生徒、保護者、各種関係者等にご理解いただきながら、本市としての持続可能な運動・スポーツの実施機会の整備に向けた情報発信及び周知が不可欠である。

	令和6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	16年度
滑川	491	488	475	539	549	562	※出生数より算出
早月	315	304	284	273	262	266	
計	806	792	759	812	811	828	667

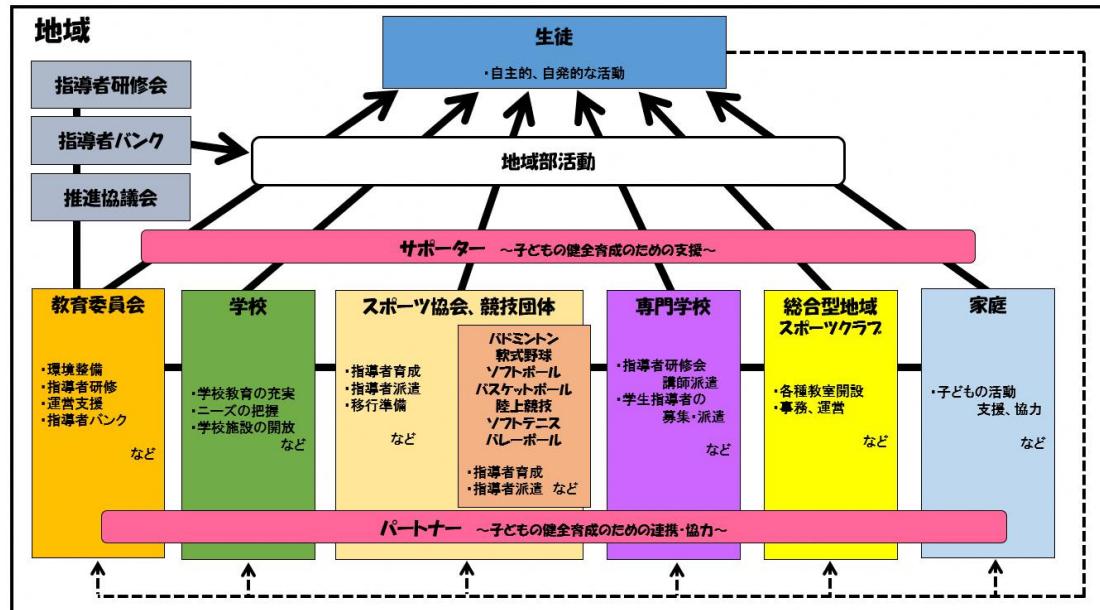
(R6.4.8 児童生徒数より)

2. 実証内容と成果



運営体制・役割

▼運営体制図(市区町村における推進体制図)



◎教育委員会

- ・教育総務課…学校部活動改革、教員の働き方改革
- ・生涯学習・スポーツ課…スポーツ・文化的活動の環境整備

◎首長部局

- ・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

▼行政組織内での役割分担

令和6年4月	クラブ活動開始(継続クラブ) 指導者研修会(救命講習)
令和6年5月	保護者説明会(新規クラブ) 第1回協議会
令和6年6月	クラブ活動開始(新規クラブ)
令和6年10月	第1期指導者研修会 (発育発達期に応じたスポーツ指導) 各競技協会等との意見交換会
令和6年11月	第2期指導者研修会 (発育発達期に応じたスポーツ指導) ニーズ調査(対象:小5・6)
令和7年1月	アンケート調査 (対象:生徒、保護者、指導者、顧問) 次年度の学校部活動について説明 (各中学校にて)
令和7年2月	各競技団体、学校との意見交換

2. 実証内容と成果



地域スポーツクラブ活動の運営実績

▼全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	統括1(内18種目・クラブ)
ケース別クラブ数	A:部活動を地域移行した形のクラブ数(及び移行された部活動数)		18クラブ(18部活)
	B:部活動を移行する形態ではない地域クラブ(新たな種目のクラブを新規に創設するケース等)		0クラブ
全体の指導者数	43人	全体の運営スタッフ数	44人

▼各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者(学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
滑川男子 バドミントン	行政部局	バドミントン (男子)	原則、 週1回 (休業日)	休業日午前 または午後	1学年7人 2学年3人 3学年10人	4月~	市内中学校 体育施設、市 内体育施設	6人	6人	なし	中体連:部活動 その他:地域クラブ
滑中女子 バドミントン		バドミントン (滑川中女子)			1学年5人 2学年6人 3学年16人						
早中女子 バドミントン		バドミントン (早月中女子)			1学年3人 2学年4人 3学年13人						
滑中 軟式野球		軟式野球			1学年4人 2学年4人 3学年6人			4人	4人		
滑川 ソフトボール		ソフトボール			1学年0人 2学年8人 3学年6人			2人	2人		

2. 実証内容と成果



地域スポーツクラブ活動の運営実績

▼各クラブに関するここと(2)

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者(学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
滑中男子バスケットボール	行政部局	バスケットボール (滑川中男子)	原則、週1回 (休業日)	休業日午前 または午後	1学年6人 2学年12人 3学年4人	4月～	市内中学校 体育施設、市 内体育施設	12人	12人	なし	中体連:部活動 その他:地域クラブ
滑中女子バスケットボール		バスケットボール (滑川中女子)			1学年6人 2学年9人 3学年7人						
早中男子バスケットボール		バスケットボール (早月中男子)			1学年7人 2学年16人 3学年9人						
早中女子バスケットボール		バスケットボール (早月中女子)			1学年6人 2学年3人 3学年3人						
早中陸上競技		陸上競技 (早月中)			1学年12人 2学年15人 3学年9人						
滑中陸上競技		陸上競技 (滑川中) (新)			1学年10人 2学年7人 3学年8人	6月～		3人	3人		

2. 実証内容と成果



地域スポーツクラブ活動の運営実績

▼各クラブに関するここと(3)

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者(学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法			
滑中男子 ソフトテニス	行政部局	ソフトテニス (滑川中男子) (新)	原則、 週1回 (休業日)	休業日午前 または午後	1学年10人 2学年1人 3学年6人	5月~	市内中学校 体育施設、市 内体育施設	3人	4人	なし	中体連:部活動 その他:地域クラブ			
滑中女子 ソフトテニス		ソフトテニス (滑川中女子) (新)			1学年6人 2学年5人 3学年4人									
早中男子 ソフトテニス		ソフトテニス (早月中男子) (新)			1学年7人 2学年7人 3学年2人									
早中女子 ソフトテニス		ソフトテニス (早月中女子) (新)			1学年8人 2学年2人 3学年3人									
滑川男子 バレーボール		バレーボール (男子) (新)			1学年8人 2学年2人 3学年6人	6月~		13人	13人					
滑中女子 バレーボール		バレーボール (滑川中女子) (新)			1学年6人 2学年4人 3学年4人									
早中女子 バレーボール		バレーボール (早月中女子) (新)			1学年11人 2学年3人 3学年3人									

2. 実証内容と成果

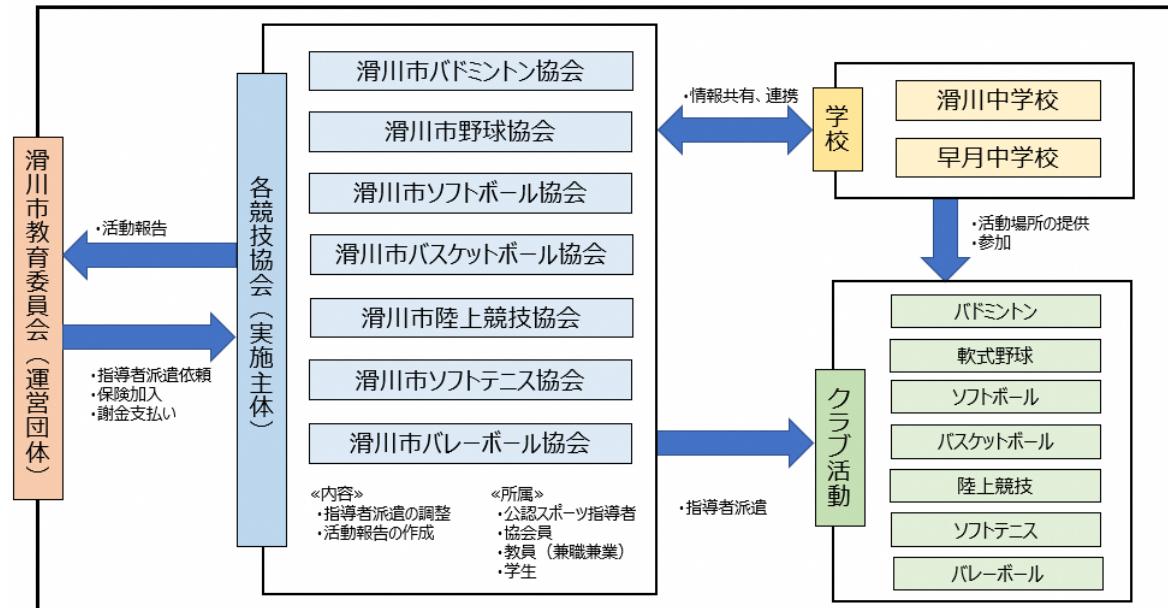


主な取組例

▼滑川市地域連携クラブ活動 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、軟式野球、ソフトボール、バスケットボール、陸上競技、ソフトテニス、バレーボール
運営団体名	滑川市教育委員会
期間と日数	4月～(週1回程度)
指導者の主な属性	競技協会員、兼職兼業教員
活動場所	滑川中学校、早月中学校、滑川市総合体育センター、滑川市スポーツ・健康の森公園 等
主な移動手段	自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり:800円/年 指導者1人あたり:1,850円/年 または1,200円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



▼指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者(運営主体-市教委)

役割:クラブ活動運営の管理者として、各競技協会、学校、保護者、指導者等との連絡、連携を行う。

●実施責任者(各競技協会)

役割:活動における管理者として、教育委員会、学校、生徒、保護者、指導者等との連絡、連携を行う。

●指導者

役割:学校と連携して指導内容の検討・決定し、生徒への指導を行う。

2. 実証内容と成果



取組内容

▼ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

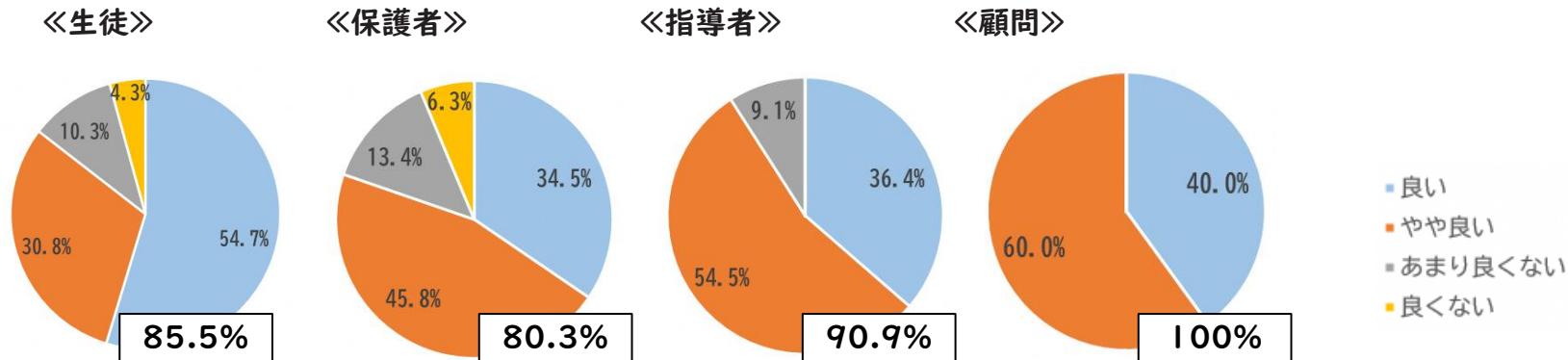
各競技協会（バドミントン、バスケットボール、軟式野球、ソフトボール、陸上競技、ソフトテニス、バレーボール）等から当該競技の休日の部活動に指導者を派遣して活動を実施し、学校と地域が連携して子どもたちの活動の機会の充実や保障を図るとともに、実施主体の整備を進める。

取組の成果

【達成目標・達成状況の検証方法】

各競技協会等の指導者による休日の指導体制の構築・充実

・参加生徒、保護者、指導者、顧問向けアンケート ⇒ 「満足度（肯定的意見）：70%以上」



参加生徒、保護者、指導者、顧問を対象としたアンケートの結果、概ね本取組に対する満足度は高い。また、対象競技・部活動が増えた(R4:1競技1部、R5:5競技10部、R6:7競技18部)ことから、休日に勤務を要しない教員が増え(R4:2名、R5:14名、R6:24名)、「休日の家族との時間や本業にかける時間の充実ができた」等との意見をいただいた。参加生徒、保護者においても、「より専門的な指導を受けることができた」、「熱心に指導をしてもらえた」、「学校外の方との交流が増え、よい経験である」、「先生の働き方改革がより進むことを期待する」等の肯定的な意見が多くかった。指導者においても、「当該競技の普及につながる」、「これまで以上に学校等との連携が深まり、地域で子どもたちの活動環境を整えることができる」等の肯定的な意見が多くかった。

今後の課題と対応方針

指導者の確保状況によって当初の予定よりも活動回数が少なくなり、「地域での活動になったことで活動機会が少なくなった」等の意見が寄せられた。県や市の指導者バンクの活用・充実等、指導者の確保を進めるとともに、地域・指導者の実情に応じた活動体制・機会の整備を図ることへの理解・周知を進め、地域全体で子どもたちの活動環境・機会の整備に向けた意識・連携を高める。

2. 実証内容と成果



取組内容

▼イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ①地元の専門学校である富山医療福祉専門学校や消防署等と連携して、スポーツ理論や救命講習等の指導者研修会を開催し、指導者の質の向上・保障を図り、参加生徒や保護者等の関係者が安全な環境で安心して活動に取り組める体制整備を進める。
- ②民間のアプリ等を活用し、生徒・保護者、指導者、顧問等の情報共有の効率化を進め、出欠確認や活動状況共有の迅速化等により、安全・安心な活動の実施及び平日・休日の練習内容等の効果的な共有を図る。

人材バンクの人数

45名

人材バンクの年齢構成

10代	3名
20代	14名
30代	11名
40代	3名
50代	8名
60代	5名
70代	1名

資格有無

指導者資格の保有を必須とはしていない。
教員免許取得者や各競技協会等の推薦者等により、派遣及び指導を行っている。

指導者の質の保障のため、公認スポーツ指導者資格の取得を促すとともに、県や市が主催する指導者研修会に積極的に参加し、指導者としての資質の向上を図るよう促している。

種目

- バドミントン
- 軟式野球
- ソフトボール
- バスケットボール
- 陸上競技
- ソフトテニス
- バレーボール

指導者研修の内容

I.救命講習

講師:滑川消防署 救急救命士

II.発育発達期に応じたスポーツ指導（講義、実技）

講師:富山医療福祉専門学校 理学療法学科

アスレティックトレーナーコース 教員

（日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）

内容:中学生年代の発育・発達の仕方等の理解を図り、心身の健やかな成長を土台とした技術指導の在り方・方法について、実践を交えて学ぶ。

指導者研修の参加実績

・開催日時:救命講習 4月21日(日) 9:00~10:30

講義① 10月23日(水) 18:30~20:30

実技① 10月24日(木) 18:30~20:30

講義② オンデマンド配信

実技② 11月21日(木) 18:30~20:30

・開催回数: 3回

・参加人数: 30人

2. 実証内容と成果



取組内容

▼イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ①地元の専門学校である富山医療福祉専門学校や消防署等と連携して、スポーツ理論や救命講習等の指導者研修会を開催し、指導者の質の向上・保障を図り、参加生徒や保護者等の関係者が安全な環境で安心して活動に取り組める体制整備を進める。
- ②民間のアプリ等を活用し、生徒・保護者、指導者、顧問等の情報共有の効率化を進め、出欠確認や活動状況共有の迅速化等により、安全・安心な活動の実施及び平日・休日の練習内容等の効果的な共有を図る。

取組の成果

今後の課題と対応方針

【達成目標・達成状況の検証方法】

①指導者研修会の実施と内容充実

- ・研修会参加者向けアンケート ⇒ 「満足度（肯定的意見）：70%以上」

指導者を対象としたアンケートの結果、受講した全指導者から肯定的な意見をいただいた。受講時間の確保が難しいとの意見から、オンデマンド配信での受講も可能とし、受講の効率化を進めた。来年度、栄養学やコーディネーショントレーニング等、開催テーマの要望があり、指導者のニーズ等に応じた指導者研修の開催ができるよう努める。



②アプリ等を活用した連絡体制の実践的調査、課題等の整理

- ・アンケート調査等による利用者の意見の集約、効率的・効果的運用方法の検証

アプリ活用競技：3／7競技（※メール等で対応：2競技）

アンケート結果から、アプリの活用によって、出欠連絡が容易になったり、活動予定の確認や状況の確認等ができ、安心して活動に参加させることができたとの意見をいただいた。一方、アプリの活用回数が少なく、利用効果が分からないとの意見もいただいた。アプリの活用方法について、具体的なマニュアル等を作成し、更なる活用を図る。

2. 実証内容と成果



総括・成果の評価・今後に向けて

▼総括

令和4年度のモデル事業も併せ、休日の運動部活動の地域連携・地域移行に取り組み始めて、今年度で3年目となるが、各取組事項に関して、一定の成果は出てきている。

関係者間の連携が深まり、対象種目・競技も拡大し、学校を含む地域全体でスポーツ環境の整備を進める意識が向上している。生徒の多様なニーズに応じた体制整備や安心安全な活動環境の整備、より充実した活動内容とするための指導者の質の向上を目的とした指導者研修会の充実等、本市における各団体等の更なる連携を図り、子どもたちのスポーツ環境の整備はもとより、スポーツを通じた地域交流の充実等も図りたい。

▼成果の評価

アンケートの結果より、今年度の取組について、概ね高い評価をいただいた。関係者間でこれまでの取組の成果や課題を共有し、好事例を参考にしたより充実した体制の整備等を図るとともに、実態に応じてできる限り課題に対応する。

▼今後に向けて

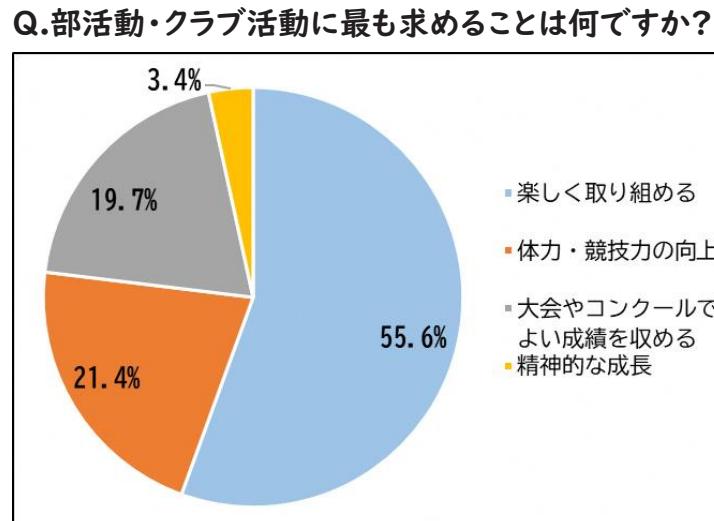
アンケート結果等を参考にしながら、多様なニーズに可能な範囲で対応・支援を検討し、よりよい活動体制の整備に努める。令和8年度からの休日の学校部活動の廃止に併せ、活動費の徴収を始めることとしており、公費負担のバランスの検討・検証を行い、できるだけ早期の徴収額や徴収方法等を周知し、持続可能性の高い体制整備等に向けた理解を図る。

2. 実証内容と成果

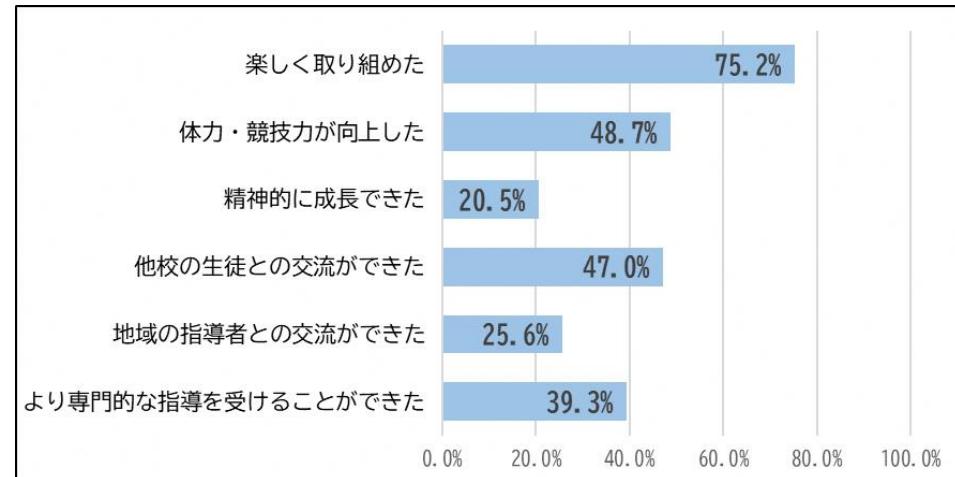


アンケート結果・参加者の声

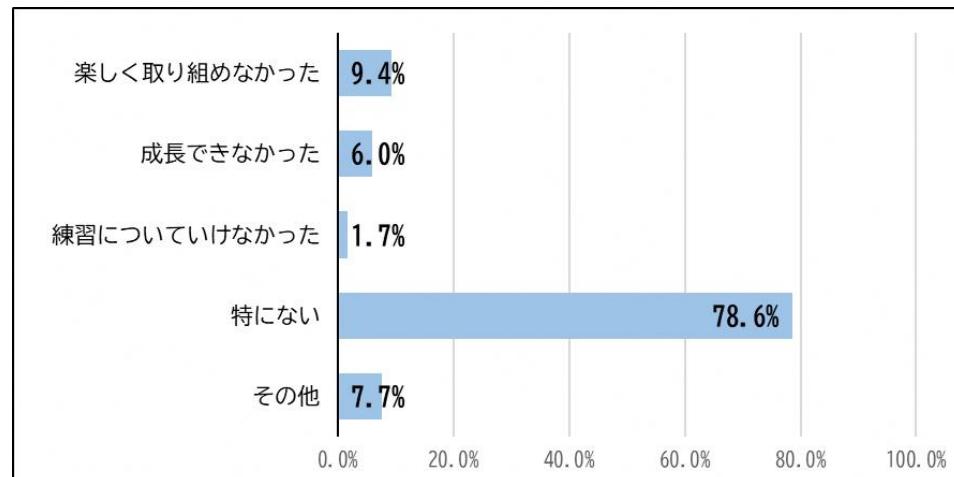
▼アンケート結果（生徒）



Q.今年度の取組で良かった点は何ですか？



Q.今年度の取組の改善点、不安点は何ですか？



その他の回答

- ・活動日が少ない。
- ・学校間でルール等を決めるといい。
- ・活動人数が増え、練習しづらい。
- ・移動距離が長くなる。
- ・もっとレベル向上のための指導をしてほしい。

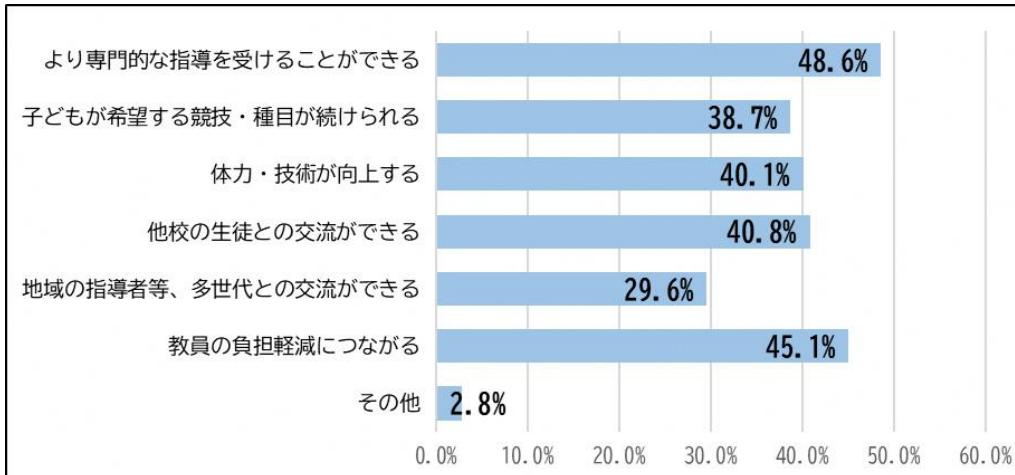
2. 実証内容と成果



アンケート結果・参加者の声

▼アンケート結果（保護者）

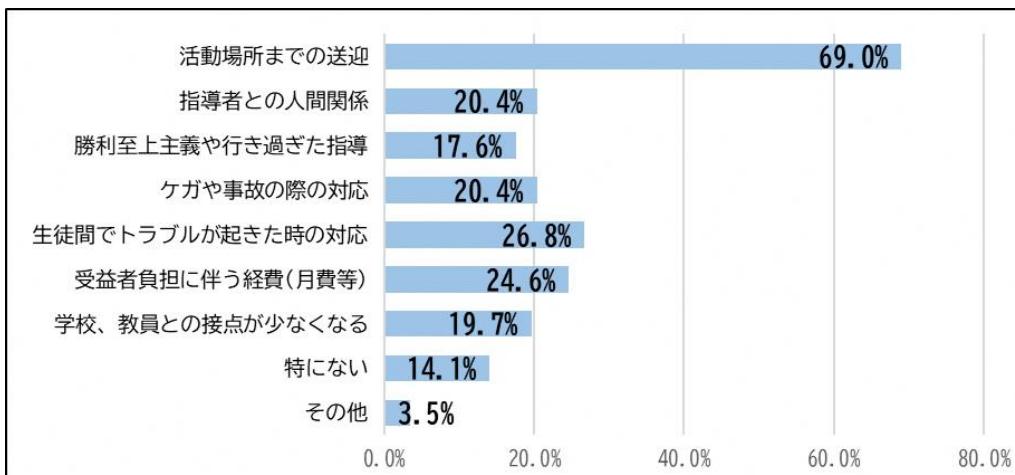
Q.中学校の部活動が地域へ展開・移行が進むことで、期待することを教えてください。



その他の回答

- ・特になし
- ・チームの人数不足の不安がなくなること

Q.中学校の部活動が地域へ展開・移行が進むことで、心配することを教えてください。



その他の回答

- ・夕方以降の練習になった場合の勉強との両立
- ・地域格差
- ・休日の活動としてなら良いと思うが、学校単位で人数が確保できるなら平日は学校部活動として活動してほしい。
- ・市で1チームになると出場機会が減るのではないか。
- ・役割分担による責任や問題意識の希薄化
- ・指導者の継続的な確保ができるか。

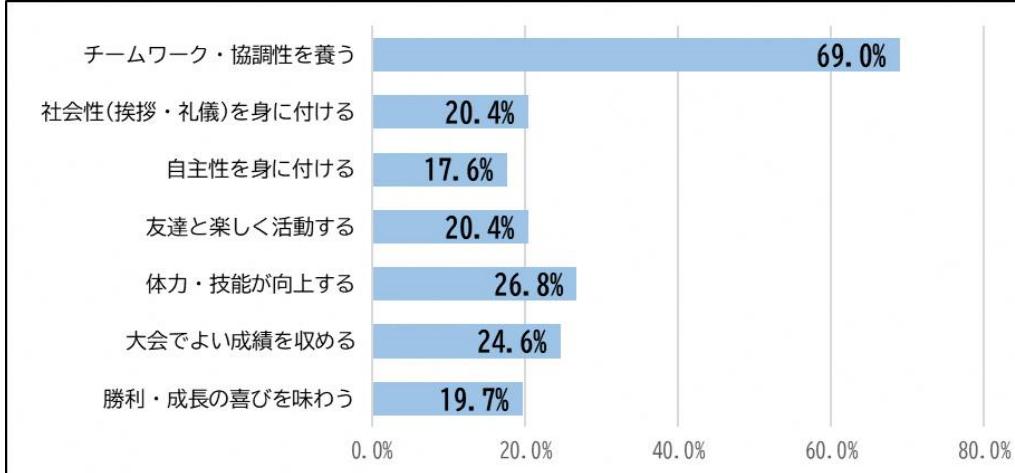
2. 実証内容と成果



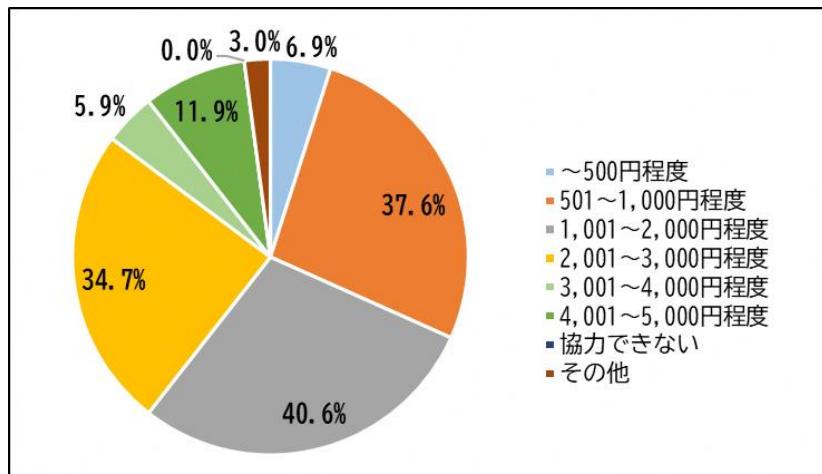
アンケート結果・参加者の声

▼アンケート結果（保護者2）

Q.お子様の部活動・クラブ活動への参加に際し、どのようなことを期待していますか。考えに近いものを3つまで選んでください。



Q.今後、継続的な地域クラブ活動を行うために活動費を負担していただいたらどの程度が妥当な金額(月額)だと思われますか?



その他の回答

- ・わからない。
- ・必要ならばいくらでも。
- ・提供可能なサービスがどの程度か、どこを目指すかによって異なり、回答が困難。

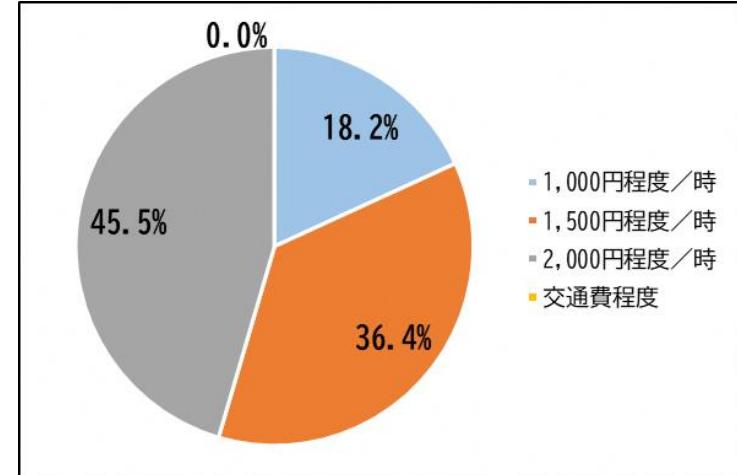
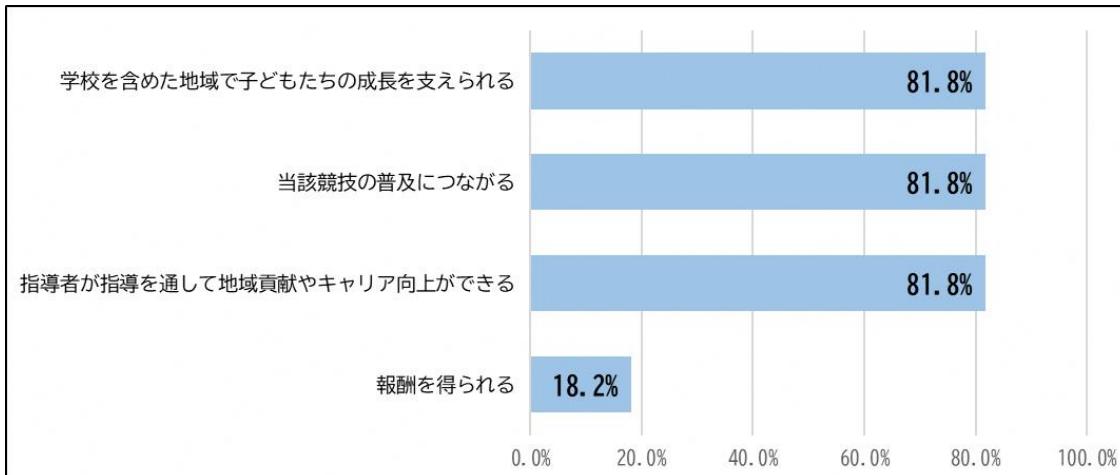
2. 実証内容と成果



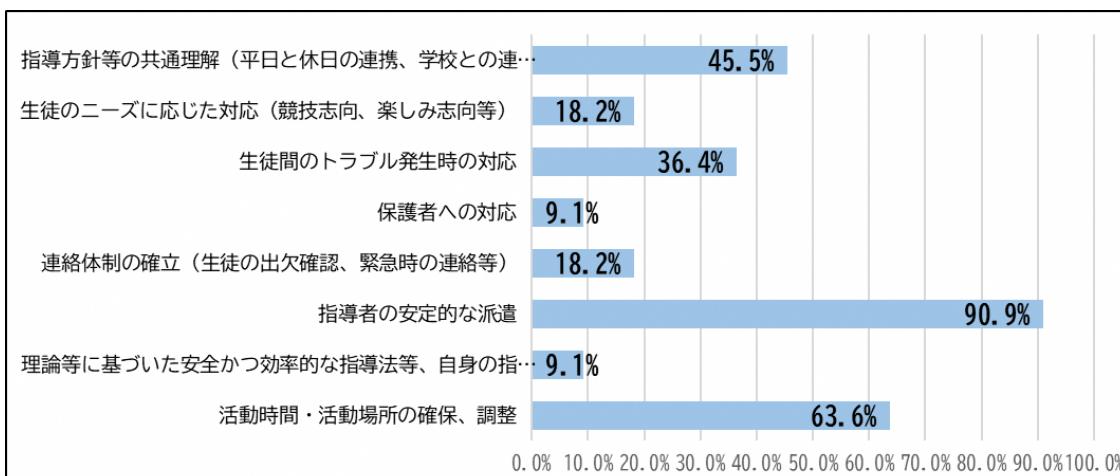
アンケート結果・参加者の声

▼アンケート結果（指導者）

Q.地域連携・地域展開が進むことの利点は何だとお考えですか



Q.これまでの活動で課題と感じておられることは何ですか？



Q.地域クラブ活動を継続的な活動にするために必要なことは何だと考えますか？

- ・顧問の先生と地域指導者の連携
- ・報酬面の充実
- ・安定して派遣できる指導者的人数の確保
- ・保護者の理解
- ・クラブチームの法人化
- ・生徒のニーズに沿った指導・対応
- ・活動場所の確保

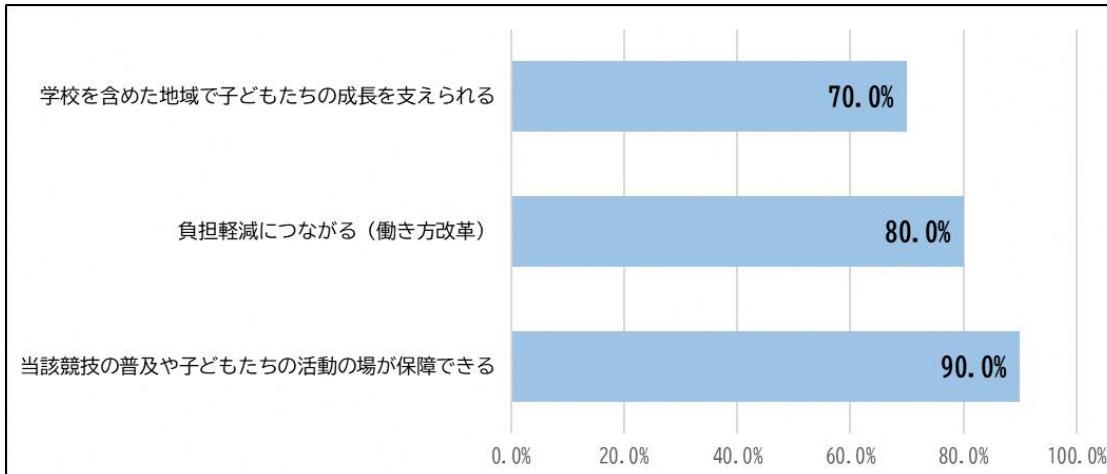
2. 実証内容と成果



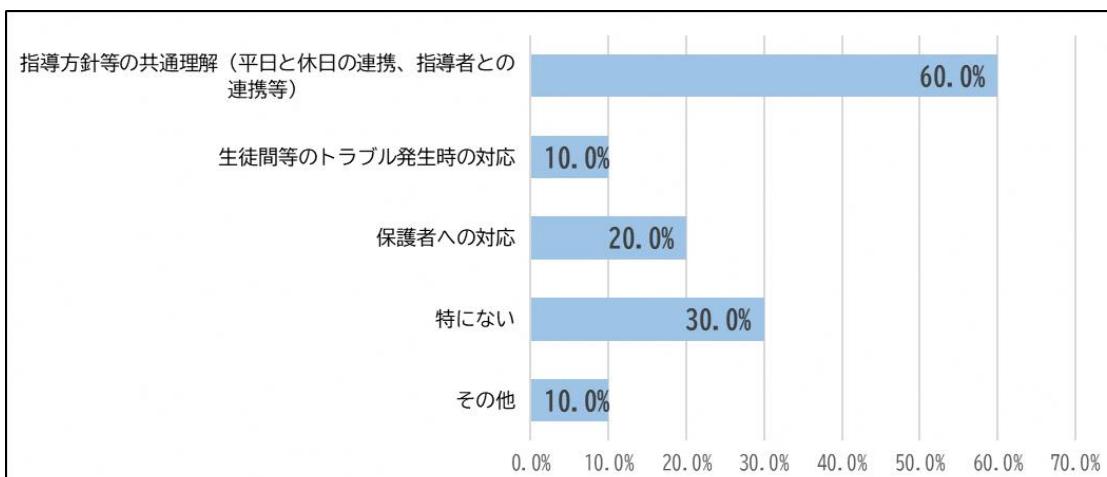
アンケート結果・参加者の声

▼アンケート結果（顧問）

Q.地域連携・地域移行が進むことの利点は何だとお考えですか？



Q.これまでの活動で課題と感じておられることは何ですか？



その他の回答

・地域の指導者に来ていただけないことがある。

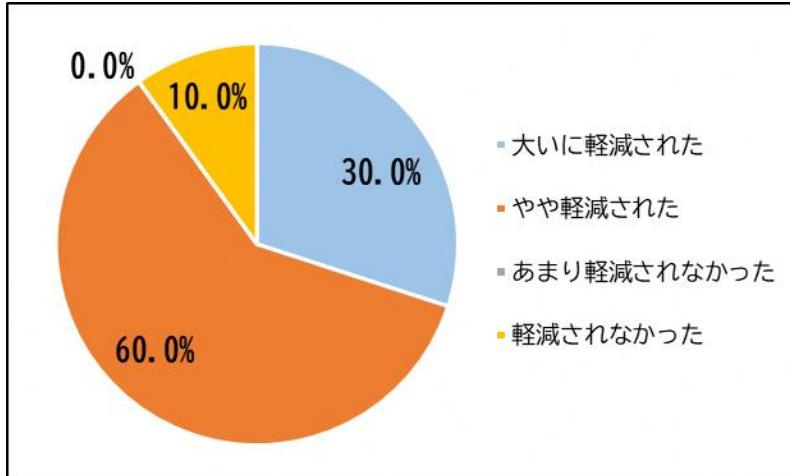
2. 実証内容と成果



アンケート結果・参加者の声

▼アンケート結果(顧問2)

Q.教員としての負担軽減につながりましたか?※兼職兼業による指導は、教員としての従事と異なります。



回答理由

«大いに軽減された»

- ・休日に出勤することが少なくなった。
- ・基本的に軽減されたが、大会運営や引率を顧問が担っているので、その負担が減るとよい。
- ・休日が増えた。

«やや軽減された»

- ・休日の大会引率
- ・以前の体制と変わらず、あまり実感がない。(※兼職兼業教員)
- ・上位大会を含め、春と秋は依然週末の半分ほどは出勤となり、それらの大会等に関わる事務的なことは全て教員が行う。
- ・休日に違う競技に行きたいのに行けない時があった。
- ・休日の使い方の幅が広がった。より学びたいことややりたいことに力を入れられることがとても良い。子どもたちのためにもなる。

«軽減されなかった»

- ・変わらず引き続き活動を見ているため。(※兼職兼業教員)

2. 実証内容と成果



参考資料（活動写真）



【バスケットボール_練習】



【軟式野球_練習】



【陸上競技_練習】



【指導者研修会_実技】

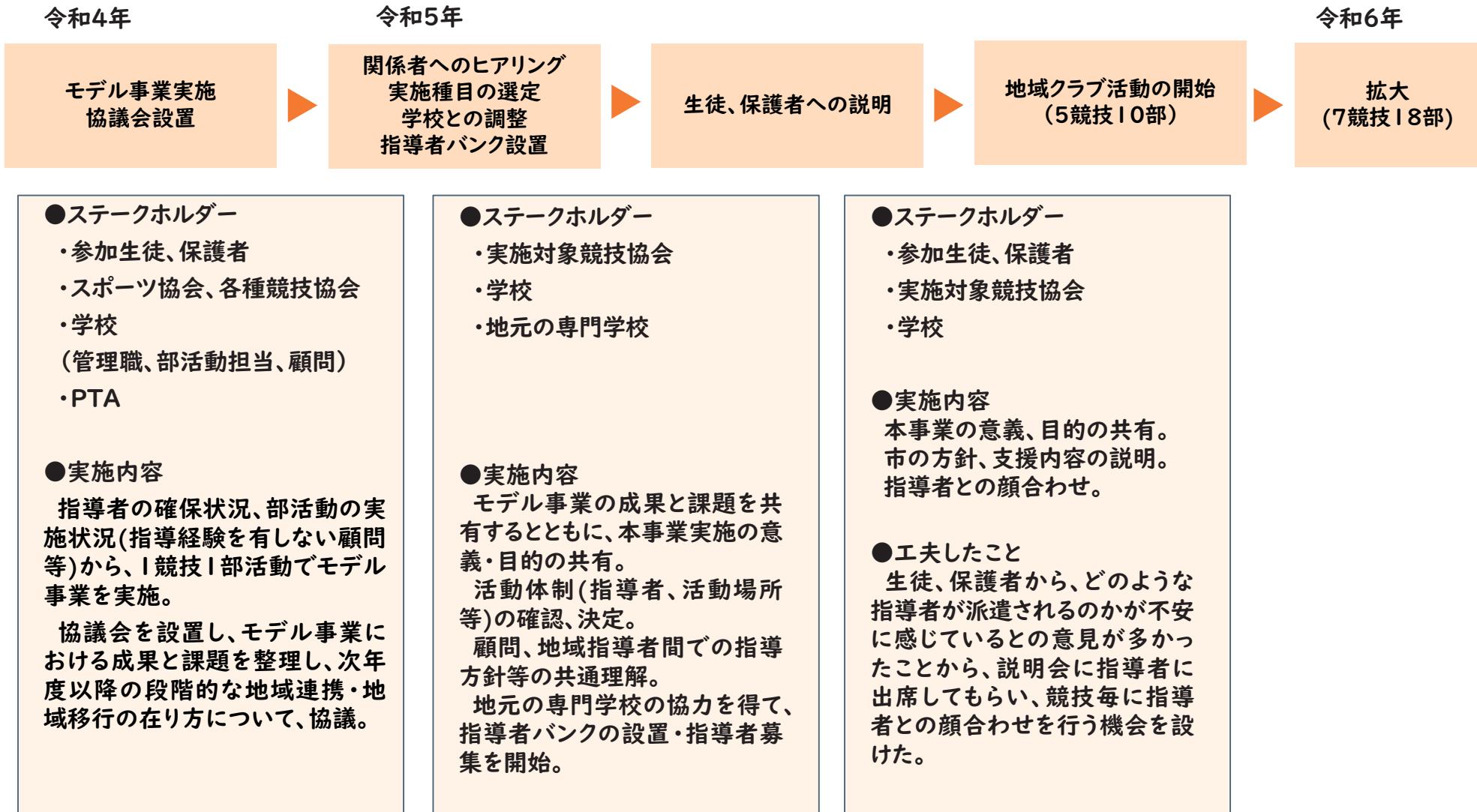


【指導者研修会_座学】

2. 実証内容と成果



地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性



地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【目指す姿】

- 少子化の中でも、持続的にスポーツ活動に親しむことができる環境の整備、選択肢の提供。
- 学校を含めた地域全体で多様なスポーツ活動に親しむことができる環境を整備し、子どもたちのみならず多世代の交流機会の創出など、地域全体のスポーツ振興を図る。

	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度以降 (R9~)
概要	・実情に応じて、可能な限り、休日の地域連携・移行を進める。 ※可能な競技は平日も地域へ。		・休日の学校部活動の廃止。 ※可能な競技は平日も含め完全移行。	・実情に応じて、可能な限り、完全移行を目指す。
平日	学校部活動			
休日	地域クラブ活動			